

## 巻 頭 言



地域国際化協会連絡協議会会長  
(公財)神戸国際協力交流センター理事長  
矢田 立郎

# 地域に、そして世界に必要とされる 地域国際化協会を目指して

地域国際化協会連絡協議会は、1990年の発足以来29年を迎えます。現在62の都道府県・政令指定都市に設置された地域国際化協会が構成され、各構成団体による相互連携、情報交換などを通して、地域の国際化の推進を担う各構成団体のより一層の活性化や、それぞれが抱える各種の課題解決に取り組んでまいりました。

この間、日本の外国人人口は年々増え、総務省が本年4月に発表した2017年10月時点の人口推計によりますと、外国人の過去1年間の純流入数は過去最多の14万7千人に達し、外国人人口は205万8千人となり、初めて200万人を超えております。また、政府は2019年にも外国人労働者向けの新たな在留資格をつくるとの報道がなされており、今後も外国人の人口増加が見込まれるところであります。

このような中、地域国際化協会連絡協議会が実施しているアンケート調査におきましても、生活相談や日本語学習に関する研修を求める団体が増えてきており、外国人住民からのより生活に密着した相談・要望などが増えてきていることが窺えます。

また、このような外国人の人口増加に伴い、地域社会や日常生活の中に新たな変化や課題をもたらし、各種の軋轢、摩擦が生じた事例も聞き及んでおります。今後とも多文化共生の取り組みはますます重要となるものと思われ、これらの研修の充実を図っていききたいと考えております。

さらには、地域国際化協会連絡協議会において、特に力を入れております災害時における外国人支援についても、引き続き広域災害時の連携支援体制の整備などを推進してまいりたいと考えております。

現在、(公財)神戸国際協力交流センターでは、ポル・ポト政権下における、医師、教師、技術者などのいわゆる知識人の大量虐殺や教育施設の破壊と焚書によって教育の復興に大きな課題を抱えているカンボジアにおいて、神戸市教員OBを小学校教員養成校に派遣し、同校の指導教官が、効果的に教授できるように支援する事業にも力を入れており、このような国際協力事業についても、他の地域国際化協会との連携や情報交換などを行っていききたいと考えているところであります。

地域国際化協会の役割は、外国人の人口増加や世界情勢の変化に伴い、ますます重要となるとともに多様化してくるものと考えられます。今後も、地域国際化協会連絡協議会を通じて各地域国際化協会間のネットワークを緊密にし、さまざまな経験・知識・情報などを共有することにより、国際交流の輪を広め、国際協力を推進することで、地域に必要とされ、そして世界に必要とされる地域国際化協会を目指していこうではありませんか。